

# 参 考 資 料

資-1 みんなで目指すまちの姿の実現に向けた行動と施策

資-2 用語解説

資-3 名古屋市環境審議会委員名簿

資-4 名古屋市環境審議会 第4次名古屋市環境基本計画部会委員名簿

資-5 第4次名古屋市環境基本計画の審議等経過

# 資-1 みんなで目指すまちの姿の実現に向けた行動と施策

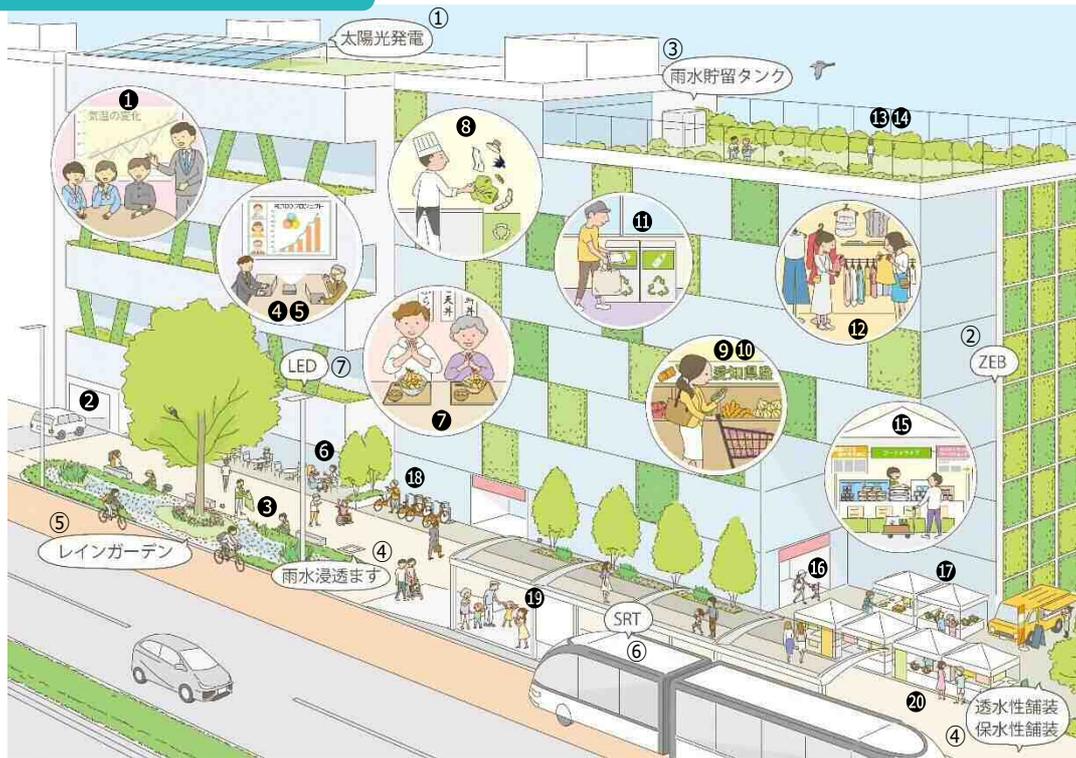
みんな目指すまちの姿の実現に向けた行動や取り組みと、それを推進する施策の関係を示します。

## Scene1 身近な生活空間で・・・



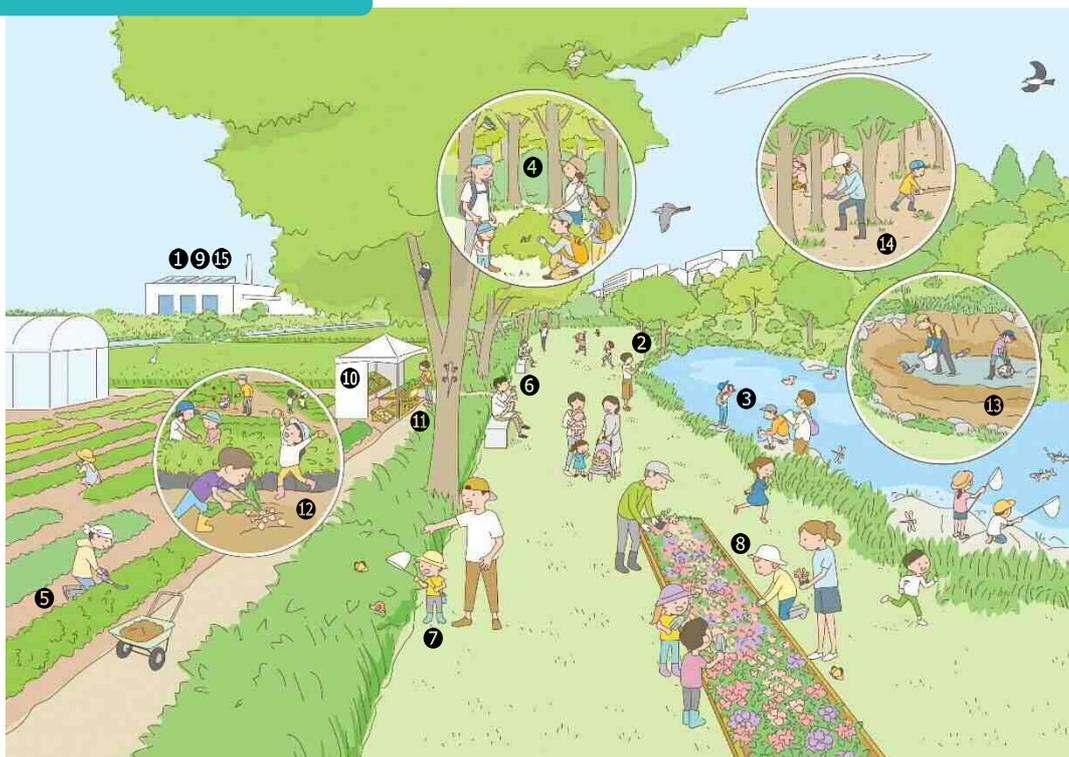
		施策Ⅰ	施策Ⅱ	施策Ⅲ	施策Ⅳ	施策Ⅴ	
行動	①テレワークをしています。	共通 基盤					
	②環境に関する情報を収集しています。						
	③買い物に出かける前に冷蔵庫の在庫を確認しています。				○		
	④手つかずの食品をフードドライブに寄付しています。				○		
	⑤ごみ・資源を適切に分別しています。				○		
	⑥シェアリングサービスを利用して衣類をシェアしています。				○		
	⑦環境講座に参加しています。						
	⑧市民農園で野菜作りを楽しんでいます。					○	
	⑨ZEVのシェアカーを利用しています。			○			○
	⑩太陽光で発電した電気をEVに充電しています。						○
	⑪貯めた雨水を利用して水やりをしています。					○	
	⑫自転車で通勤・通学しています。			○			○
	⑬生ごみからつくった堆肥で家庭菜園を楽しんでいます。				○	○	
	⑭まちの美化活動に参加しています。				○		
	⑮汚れをふき取ってから食器を洗っています。			○			
	⑯省エネ・省資源で環境に配慮した生産活動を行っています。				○		○
	⑰環境基準を守り、生産活動を行っています。			○		○	
	⑱省エネ効果の高い製品を使用しています。						○
技術	①屋上緑化				○	○	
	②太陽光発電					○	
	③緑のカーテン				○	○	
	④ZEH、ZEH-M					○	
	⑤雨水貯留タンク				○		
	⑥透水性舗装・保水性舗装、雨水浸透ます				○	○	
	⑦V2H 充電設備					○	
	⑧緑化駐車場				○	○	
	⑨断熱					○	
	⑩LED					○	

Scene2 商業・業務地で…



		施策Ⅰ	施策Ⅱ	施策Ⅲ	施策Ⅳ	施策Ⅴ	
行動	①事業者が環境講座を開催しています。	共通 基 盤					
	②事業者同士でZEVをシェアしています。		○			○	
	③事業者がまちの美化活動に参加しています。				○		
	④環境保全プロジェクトの資金をESG投資家から調達しています。						
	⑤Web会議をしています。				○		○
	⑥リターナブル容器を使用して飲食物を提供しています。				○		
	⑦適量メニューの提供や持ち帰り対応をしています。				○		
	⑧生ごみを分別してリサイクルしています。				○		
	⑨地域で生産された農作物や環境にやさしい商品を多く扱っています。				○		
	⑩納品期限の緩和や期限の近い食品からの購入促進をしています。				○		
	⑪資源を回収してリサイクルしています。				○		
	⑫リユース品を販売しています。				○		
	⑬鳥や虫を呼び寄せる木々で緑化しています。					○	
	⑭貯めた雨水を利用して散水しています。					○	
	⑮家庭の手つかず食品を回収するフードドライブを実施しています。				○		
	⑯マイバッグやマイボトルを持って出かけています。				○		
	⑰環境イベントやマルシェを開いています。						
	⑱コミュニティサイクルを利用しています。			○			○
	⑲スマートフォンを活用し、シームレスにつながった交通サービスを利用しています。						○
	⑳フェアトレード商品やエシカルな商品を販売しています。					○	○
技術	①太陽光発電					○	
	②ZEB					○	
	③雨水貯留タンク				○		
	④透水性舗装・保水性舗装、雨水浸透ます				○	○	
	⑤レインガーデン				○	○	
	⑥SRT					○	
	⑦LED					○	

参考資料



		施策Ⅰ	施策Ⅱ	施策Ⅲ	施策Ⅳ	施策Ⅴ	
行動	①環境基準を守り、生産活動を行っています。	共通 基盤	○		○		
	②自然の写真を SNS にアップしています。				○		
	③水質や生きものの調査・保全活動をしています。		○		○		
	④自然観察会、体験型学習会に参加しています。						
	⑤生ごみからつくられた堆肥で野菜を育てています。				○	○	
	⑥マイボトルを使用しています。				○		
	⑦帽子をかぶり、こまめに水分補給をしています。						○
	⑧花壇の手入れをしています。					○	
	⑨再生可能エネルギーを利用し、生産活動を行っています。						○
	⑩規格外の農作物を有効活用しています。				○		
	⑪地域で生産された農作物を購入しています。					○	○
	⑫季節の野菜の収穫体験をしています。						
	⑬池干しをして外来種を駆除しています。			○		○	
	⑭森の手入れをしています					○	○
	⑮廃棄物の発生を抑えた生産活動を行っています。				○		

## 資-2 用語解説

英数字	
スリーアール 3R	「Reduce=リデュース（発生抑制）」、「Reuse=リユース（再使用）」、「Recycle=リサイクル（再生利用）」の3つの頭文字をとった言葉で、ごみ減量のために必要な取り組みを表す。
エーアイ AI	Artificial Intelligence の略で、人工知能のこと。言語の理解や推論、問題解決などの知的行動を人間に代わってコンピュータに行わせる技術。
ビーオーディー BOD	Biochemical Oxygen Demand の略で、生物化学的酸素要求量のこと。水中の有機汚濁物質を分解するために微生物が必要とする酸素量で、河川の汚濁を表す代表的な指標。この数値が大きいほど、水質が汚濁していることを意味する。
キャスビー CASBEE	Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency の略で、建築環境総合性能評価システムのこと。本市では、全国版の評価システムである「CASBEE 新築」をもとに、「CASBEE 名古屋」を作成し、建築物における環境に配慮した取り組みを評価している。
シーオーディー COD	Chemical Oxygen Demand の略で、化学的酸素要求量のこと。水中の有機汚濁物質を酸化剤で分解する際に消費される酸化剤の量を酸素量に換算したものの。この数値が大きいほど、水質が汚濁していることを意味する。
クール <small>チョイス</small> COOL CHOICE	温室効果ガス排出量の削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」「サービスの利用」「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資する「賢い選択」をしていこうという国の取り組み。
エコディーアールアール Eco-DRR	Ecosystem-based disaster risk reduction の略で、自然災害の被害に遭いやすい土地の利用や開発をさけることにより、被災する可能性を低下させるとともに、生態系の持続的な管理、保全と再生を行うことで、災害に強い地域をつくるという考え方。
イーエムエス EMS	Energy Management System の略で、工場・ビル・住宅などでエネルギーの「見える化」などを実施し、エネルギーを合理的に利用するための活動や仕組みのこと。
イーエスディー ESD	Education for Sustainable Development の略で、一人ひとりが世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動を変革するための教育のこと。
イーエスシー ESG 投資	環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）に関する情報を考慮した投資のこと。
イーヴィ EV	Electric Vehicle の略で、電気自動車のこと。
エフシーヴィ FCV	Fuel Cell Vehicle の略で、燃料電池自動車のこと。燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使って、モーターを回して走る自動車。
アイシーディー ICT	Information and Communication Technology の略で、情報・通信に関する技術の総称。
アイオーディー IoT	Internet of Things の略で、モノのインターネットのこと。コンピュータなどの情報・通信機器だけでなく、世の中に存在するさまざまな物体（モノ）に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信したりすることにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。
マース MaaS	Mobility as a Service の略で、出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービスのこと。
ピーエイチヴィ PHV	Plug-in Hybrid Vehicle の略で、プラグインハイブリッド自動車のこと。外部から充電した電気のみで走行することもできるハイブリッド自動車。
ペタジュール PJ	エネルギー量の単位で、千兆（10の15乗）ジュール。1ジュール≒0.239 カロリー。
ピーエムニーテンゴ PM2.5	Particulate Matter 2.5 の略で、微小粒子状物質のこと。大気中に浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが2.5 $\mu$ m（1 $\mu$ m=1mmの1000分の1）以下の非常に小さな粒子のことで、ボイラーや自動車などの燃料の燃焼、空気中のガスの化学反応が原因でできたものや土など自然由来のものなどがある。

アールイーヒャク RE100	企業が自らの使用電力を 100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際的なイニシアティブのこと。
エスディージーズ SDGs 未来都市	SDGs の達成に向けた優れた取り組みを提案する都市として国が選定するもの。本市は 2019 年 7 月に選定を受けた。2020 年 7 月現在、93 都市が選定されている。
エスエヌエス SNS	Social Networking Service (Site) の略で、インターネット上で友人を紹介しあって、個人間の交流を支援するサービス (サイト) のこと。
エスピーエム SPM	Suspended Particulate Matter の略で、浮遊粒子状物質のこと。大気中に浮遊する小さな粒子のうち、粒子の大きさが 10 $\mu$ m 以下の粒子のことで、ボイラーや自動車などの燃料の燃焼、空気中のガスの化学反応が原因でできたものや土など自然由来のものなどがある。
エスアールディー SRT	Smart Roadway Transit の略で、技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート (Smart) さを備え、路面 (Roadway) を走ることでまちの回遊性にぎわいを生み出す、今までにない新しい移動手段 (Transit) の呼称。
フィットウェイチ V2H 充放電設備	Vehicle to Home の略で、電気自動車などの蓄電池に蓄えた電気を住宅などに供給できる機能を持つ設備のこと。
ゼロ ZEB	Net Zero Energy Building の略で、断熱性能の高い窓や LED 照明などを導入し省エネルギー化を実現した上で、太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入することにより、正味の年間エネルギー消費量がゼロ以下となる建築物のこと。P75 参照。
ゼッチ ZEH	Net Zero Energy House の略で、断熱性能の高い窓や LED 照明などを導入し省エネルギー化を実現した上で、太陽光発電などの再生可能エネルギーを導入することにより、正味の年間エネルギー消費量がゼロ以下となる住宅のこと。集合住宅における取り組みは、ZEH-M と呼ばれている。P75 参照。
ゼロ ZEV	Zero Emission Vehicle の略で、有害な排出ガスを出さない自動車のこと。一般的には電気自動車や燃料電池自動車が該当するが、プラグインハイブリッド自動車を含める場合もある。
<b>あ行</b>	
アスベスト	天然の繊維状の鉱物で、石綿 (いしわた、せきめん) とも呼ばれる。熱や摩擦に強く、丈夫で変化しにくいという性質を持っているため、耐火、断熱、防音などの目的で、建材などに利用されてきた。P65 参照。
アップサイクル	単なる再使用や素材の原料化ではなく、もともとの素材の特徴を活かしつつ、元の製品よりも次元・価値の高いモノを生み出すこと。
池干し	ため池の水を抜き、底にたまった泥や砂を取り除くこと。また、その際に、池に生息・生育する外来生物を駆除することもできる。
イノベーション	従来の考え方にとらわれない自由な発想で、新たな価値を生み出し、人々の生活に劇的な変化をもたらすこと。
雨水流出抑制	雨水を一時的に貯めたり地下に浸透させたりして、河川・下水道への雨水流出量を抑制すること。
駅そば生活圏	駅を中心とした歩いて暮らせる圏域。
エコドライブ	ふんわりスタートやアイドリング・ストップなど、環境負荷の軽減に配慮した自動車の運転方法や使い方。
エシカル消費	人や社会や地球環境に配慮した商品・サービスを積極的に選択することで、さまざまな課題解決につながる消費活動。
<b>か行</b>	
カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量との間の均衡が保たれること。

外来種	人間の活動などにより他の地域から持ち込まれた生物であり、特に、野生化して世代交代を繰り返すようになり、在来の生態系に定着した動植物を指す。地域の自然環境に大きな影響を与えるものや生態系への脅威となる外来生物を侵略的外来種と呼ぶ。
環境影響評価制度	道路や鉄道の建設、大きな建物の建築などの事業を行う場合に、それが周辺の環境にどのような影響を与えるかを事業者が事前に調査、予測、評価するとともに、その結果を公表し、市民、行政からの意見を事業計画に反映させることによって、より環境に配慮した事業にしていけることを目的とした仕組み。
環境目標値	環境基本条例に基づき本市独自に設定した目標で、大気汚染や水質汚濁などの環境上の条件について、それぞれ、市民の健康を保護し、及び快適な生活環境を確保する上で維持されるべき目標値。
環境リスク	人の活動によって加えられる負荷が環境中の経路を通じ、環境保全上の支障を生じさせるおそれ（人の健康や生態系に影響を及ぼす可能性）のこと。
技術シーズ	新技術の発展につながる可能性を秘めた発見や技術など。
クラウドファンディング	群衆（Crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語で、インターネットを通じて幅広く資金を集める手法のこと。
グリーン・リカバリー	新型コロナウイルス感染症の拡大による経済停滞からの復興にあたり、温室効果ガス排出抑制など環境対策への投資を増やし、環境課題の解決と経済復興とを両立させる考え方。
グリーンインフラ	自然環境が有する多様な機能（生きものの生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など）を積極的に活用して、さまざまな効果を得ようとする取り組み。
グリーンウェイブ	国連が定める「国際生物多様性の日」である5月22日の午前10時（現地時間）に、世界中で植樹などを行い、生物多様性について考えるきっかけとする活動。
グリーン購入	製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入すること。
グリーンな経済	環境問題に伴うリスクと生態系の損失を軽減しながら、人間の生活の質を改善し社会の不平等を解消するための経済のあり方。
光化学オキシダント（Ox）	大気中の窒素酸化物などに太陽光（紫外線）が作用して生成される酸化性物質。高濃度では粘膜を刺激し、呼吸器への影響を及ぼすほか、農作物など植物へも影響を与える。
高度処理水	従来の処理方法に比べ窒素・りんなどを多く除去できる処理方法（嫌気好気法や急速ろ過法など）で下水を処理した水のこと。
コミュニティサイクル	利用・返却が同じ場所となるレンタサイクルとは異なり、専用の自転車貸出返却場所（ステーション）が複数設置され、ステーション間の移動であれば、どこで借りてどこへ返してもよいシステム。
<b>さ行</b>	
サーキュラーエコノミー	循環経済のことで、従来の「大量生産・大量消費・大量廃棄」のリニアな経済（線形経済）に代わる考え方。近年のシェアリングなど循環性と収益性を両立するビジネスモデルの広がりも踏まえ、製品と資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化した持続可能な経済活動を指す。
再生可能エネルギー	太陽光や太陽熱、水力、風力、バイオマスなど、一度利用しても比較的短い期間で再生が可能であり、資源が枯渇しないエネルギーのこと。発電時や熱利用時に温室効果ガスがほとんど発生しない点でも優れている。
シームレス	「継ぎ目のない」の意味。公共交通分野におけるシームレス化とは、乗継ぎなどの交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものにする。
シェアリングエコノミー	典型的には個人が保有する遊休資産（スキルのような無形のものも含む）の貸出しを仲介するサービス。貸主は遊休資産の活用による収入、借主は所有することなく利用ができるメリットがある。
次世代自動車	CO <sub>2</sub> 排出量の削減効果が大い、燃料電池自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド自動車などエコカーの中でも特に排出ガス性能が優れ、環境にやさしい自動車のこと。ガソリ

	ン以外の燃料や電気を使って走るため、排出される CO <sub>2</sub> や大気汚染物質が少ない（または全く出ない）ほか、燃費性能も優れている。
持続可能な開発目標（SDGs）	2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際目標のこと。SDGs（Sustainable Development Goals）。P3参照。
市民農園	市、農協、農家、企業などが開設する貸し農園。
集約連携型都市構造	駅を中心とした歩いて暮らせる圏域に、商業・業務・住宅・サービス・文化などの多様な都市機能が適切に配置・連携されており、さらに景観、歴史、環境や防災に配慮された、魅力的で安全な空間づくりがなされている都市構造。
食品ロス	本来食べられるのにも関わらず捨てられてしまう食品のこと。
自立・分散型エネルギー	再生可能エネルギーなどの地域に分散している比較的小規模なもので、災害による停電などにも、地域内や住宅内でエネルギーの供給が可能なもの。
人工排熱	工場、オフィスビルの情報機器や空調に起因する建物排熱や自動車走行に伴う自動車排熱、工場などの生産活動に伴うエネルギー消費によって生ずる工場排熱などのこと。
スーパー・メガリージョン	東京、名古屋、大阪はメガリージョンと呼ばれる大都市圏域を形成しているが、スーパー・メガリージョンは、その三大都市圏がそれぞれの特色を発揮しつつ、リニア中央新幹線全線開業により一体化し形成される世界最大の人口を有する巨大経済圏のこと。
生態系	食物連鎖などの生物間の相互関係と、生物とそれを取り巻く大気・水などの無機的環境の間の相互関係を総合的に捉えた生物社会のまとまりを示す概念。
生態系サービス	食料や水の供給、気候の安定など、自然（生物多様性）から得られる暮らしを支える恵みのこと。
生態系ネットワーク	保全すべき自然環境やすぐれた自然条件を有している地域を核とし、生物の生息・生育空間のつながりや適切な配置を考慮した上で、これらを有機的につないだネットワークのこと。
生物多様性	地球上には数百万種ともいわれる多様な生物が存在する。このような種の多様性に加えて、種内の多様性（地域個体群など遺伝子レベルの多様性）、生態系の多様性を含む概念。
生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）	生物多様性の保全と持続可能な利用などを目的とした生物多様性条約締約国会議の10回目だが、2010年10月に本市で開催された。
ソーシャル・インパクト・ボンド	民間事業者が投資家から調達した資金を基に社会課題の解決につながるような事業を実施し、その成果に応じて行政から報酬が支払われ、投資家に還元される仕組み。
<b>た行</b>	
脱炭素社会	人の活動に伴って発生する温室効果ガスの排出量と吸収作用の保全及び強化により吸収される温室効果ガスの吸収量との間の均衡が保たれた社会のこと。
地域循環共生圏	各地域が美しい自然景観などの地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方。
地域冷暖房	一定域内の建物に対して、熱供給設備で発生した、冷水・温水・蒸気などを導管を通じて供給し、エリア全体でまとめて冷房・暖房・給湯を行うシステム。
地球温暖化	人の活動に伴って発生する温室効果ガスが大気中の温室効果ガスの濃度を増加させることにより、地球全体として、地表、大気及び海水の温度が追加的に上昇する現象。
地産地消	地元の農産物などを地元で消費する活動のこと。
低炭素モデル地区	市内各所での開発事業を低炭素なものへと誘導するため、低炭素なまちと暮らしの姿を市民・事業者具体的に示すモデルとして本市が認定した地区。2015年に「錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト」及び「みなとアクルス開発事業」の2事業を認定。
デジタルトランスフォーメーション（DX）	将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。
テレワーク	ICTを利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。

透水性舗装	路面に降った雨水を地中に浸透させることを目的とした舗装。歩道や駐車場、公園などで採用されている。
特定外来生物	外来生物（海外起源の外来種）であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から外来生物法により指定されるもの。
都市型水害	大都市に発生する都市特有の水害。都市では地面の大半がコンクリートやアスファルトで覆われているため、降雨が一気に側溝へ流れ込む。集中豪雨時は排水が追いつかず、地下空間などに流れ込み、浸水被害を受けることがある。
都市公園	都市公園法により次のうちいずれかに該当するものとされている。 ①都市計画施設である公園または緑地で、地方公共団体が設置するもの ②地方公共団体が都市計画区域内において設置する公園または緑地 ③国が設置するもので、都府県の区域を越えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園など
<b>な行</b>	
なごやSDGsグリーンパートナーズ	事業活動におけるSDGs及び環境に配慮した取り組みを自発的かつ積極的に実施している事業所を登録・認定し、自主的な取り組みを支援する制度であり、前身である「エコ事業所認定制度」にSDGsの視点を盛り込んだもの。P59参照。
<b>は行</b>	
パーソナルモビリティ	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1～2人乗り程度の車両。
バイオマス	生物資源（bio）の量（mass）を示す概念であり、動植物に由来する有機物である資源（化石資源を除く）。
ハザードマップ	自然災害による被害が想定される区域や被害の程度、避難所などの情報を地図上に明示して公開しているもので、その地域の住民が安全に避難できることを主な目的としている。
バリアフリー	高齢者・障害者などが、社会生活をしていく上での物理的、社会的、制度的、心理的、情報面での障壁を除去するという考え方。
ヒートアイランド現象	都市部の気温がその周辺の郊外部に比べて高温を示す現象。等温線を描くと都市部が島の形に似ることからヒートアイランド現象と呼ばれている。
フードドライブ	家庭にある手つかず食品を持ち寄り、まとめてフードバンク活動団体や地域の福祉施設などに寄付する活動。
フェアトレード	開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することで、生産者や労働者の生活改善と自立を目指すもの。その理念は、環境・貧困・人権・平和・開発など地球規模の課題解決につながる。本市は2015年にフェアトレードをまちぐるみで推進する「フェアトレードタウン」に認定されている。
ふるさと納税制度	個人が生まれ育ったふるさとや応援したい自治体に寄附した場合に、寄附額のうち2,000円を超える部分について、一定の上限まで所得税と住民税から控除される制度。
包摂性	全ての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から援護し、健康で文化的な生活の実現につながる状態のこと。
<b>ま行</b>	
未規制有害物質	法令などで規制対象とされていないが、環境リスクが懸念される化学物質。
水循環	地球上の水は、海や陸から蒸発して雲となり、雨や雪となって地上に降り注ぐ。地上に降った雨や雪は蒸発して再び雲となるほか、地中に浸み込み、地下水や湧き水となる。湧き水や地中に浸み込まなかった雨や雪は、地表から河川へ流れ、やがて海に注ぐ。このように水が姿を変えながら地球をめぐることを水循環という。
未利用エネルギー	工場などの排熱や、河川水・下水などの温度差エネルギーといった、今まで利用されなかったエネルギーの総称。

ら行	
リニア中央新幹線	東京都から名古屋市を經由し大阪市までを超電導リニアによって結ぶ新たな新幹線。
緑被率	ある地域における緑被地の占める割合のことで、平面的なみどりの量を表す指標となる。緑被地は樹木や草で覆われた土地のことで、本市では農地や水面も緑被地としている。
緑化地域制度	市街地などにおいて効果的に緑を創出していくために、一定規模以上の敷地面積を有する建築物の新築や増築を行う場合に、定められた割合（緑化率の最低限度）以上の緑化を義務付ける制度。
レインガーデン	降雨時に雨水を一時的に貯留し、時間をかけて地下へ浸透させる透水型の植栽スペース。下水道への負荷の軽減や、水質浄化、地下水の涵養などの効果が期待される。
レッドリスト	絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト。国際的には国際自然保護連合（IUCN）が作成しており、国内では、環境省のほか、地方公共団体や NGO などが作成している。

## 資-3 名古屋市環境審議会委員名簿

区分	氏名	役職など
市議会議員	山田 昌弘	市会副議長
	松井 よしのり	総務環境委員会委員長
	三輪 芳裕	安心・安全なまちづくり対策特別委員会委員長
学識経験者	伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
	○大鹿 聖公	愛知教育大学教育学部教授
	◎奥宮 正哉	名古屋大学名誉教授
	加藤 孝雄	日本労働組合総連合会愛知県連合会名古屋地域協議会副代表
	加藤 博子	愛知県弁護士会
	小林 富雄	愛知工業大学経営学部教授
	佐藤 綱洋	名古屋商工会議所理事・産業振興部部長
	曾我 幸代	名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授
	竹内 恒夫	名古屋大学名誉教授
	田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
	富永 晃宏	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
	永田 悦子	名古屋市医師会
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授
	野呂 雄一	三重大学教養教育院教授
	洞澤 秀雄	南山大学大学院法務研究科教授
	堀江 典子	佛教大学社会学部公共政策学科准教授
関係行政機関	岡田 守人	愛知県環境局長
	新藤 公人	中部経済産業局資源エネルギー環境部長
	秀田 智彦	中部地方環境事務所長

(注) 敬称略、2021年3月25日(答申受領時)時点

◎: 会長、○副会長

参考資料

## 資-4 名古屋市環境審議会 第4次名古屋市環境基本計画部会委員名簿

区分	氏名	役職など
部会長	奥宮 正哉	名古屋大学名誉教授
委員	大鹿 聖公	愛知教育大学教育学部教授
	小林 富雄	愛知工業大学経営学部教授
	佐藤 綱洋	名古屋商工会議所理事・産業振興部部長
	曾我 幸代	名古屋市立大学大学院人間文化研究科准教授
	富永 晃宏	名古屋工業大学大学院工学研究科教授
	夏原 由博	名古屋大学大学院環境学研究科教授

(注) 敬称略、2021年3月25日(答申受領時)時点

## 資-5 第4次名古屋市環境基本計画の審議等経過

日 程		審 議 内 容
2019年 1月18日	第19回 環境審議会	・第4次名古屋市環境基本計画の策定について（諮問）
2019年 5月20日	第1回 環境基本計画部会	・第4次名古屋市環境基本計画の位置づけ等及び策定スケジュール ・第3次名古屋市環境基本計画の総括 ・第4次名古屋市環境基本計画策定の基本的方向
2019年 8月23日	第2回 環境基本計画部会	・2030年のめざす姿 ・環境施策の基本的方向
2019年 11月11日	第3回 環境基本計画部会	・2030年のめざす姿に向けた各主体の役割 ・2030年のめざす姿に向けた環境施策の取組姿勢 ・重点施策
2019年 12月18日	第20回 環境審議会	・第4次名古屋市環境基本計画の策定について（経過報告）
2020年 2月28日	第4回 環境基本計画部会	・第4次名古屋市環境基本計画の構成 ・2030年のめざす姿のイメージ ・政策・施策体系 ・指標
2020年 7月31日	第5回 環境基本計画部会	・第4次名古屋市環境基本計画（素案）
2020年 11月10日	第6回 環境基本計画部会	・第4次名古屋市環境基本計画（素案）
2021年 2月1日	第7回 環境基本計画部会	・第4次名古屋市環境基本計画（部会報告案）
2021年 3月25日	第22回 環境審議会	・第4次名古屋市環境基本計画の策定について（答申）
2021年 6月25日 ～7月26日		・市民意見の募集
2021年9月		・第4次名古屋市環境基本計画を策定

